

< 研究成果の紹介 >

イチゴ新品種「サンチーゴ」の育成

資源開発部

1、成果の内容

イチゴは、需要が安定し高収益が得られることから、本県の農業の中で重要な作物になっています。しかし、近年では生産者の高齢化が進み、栽培面積、生産量ともに減少傾向にあります。そのため、その対応策の1つとして、農業技術センターでは、三重県独自のブランド品種による一層の収益性向上と耐病性で栽培容易な大果品種による生産の省力化を目的とし、新品種の育成に取り組みました。

平成2年に、アイベリー、宝交早生、とよのかを交配し、それらの子孫の中から優秀な系統を選抜しました（図1）。系統名「三系4」で実施した現地試験において優秀な成績が得られたため、平成11年3月に品種名「サンチーゴ」として品種登録出願しました。

新品種「サンチーゴ」の特徴は、1）生産者を悩ませてきた重要病害「炭そ病」に対して抵抗性を持っています。2）食味、果形、果色、果実硬度が良好で、また、ビタミンC含量も高く、消費者に好まれる優れた市場性を持っています。3）大果であるため収穫調整作業を省力化できる上に、栽培管理も容易です。4）既存の品種に比べ収穫量が増加します（表1）。

今後は、苗を増殖しながら、県内の主要品種になるよう普及を進めます。

2、技術の適用効果と適用範囲

県下全域の促成栽培に用いることができます。また、栽培管理が容易なため、新規にイチゴ栽培に取り組む農家にも適しています。

3、普及・利用上の留意点

- 1）萎黄病に対する抵抗性は高くないので、健全苗を用いて、萎黄病汚染圃場での栽培を避けてください。
- 2）ランナーの先端が枯死する場合があるので、育苗期間には余裕を持ってください。
- 3）花芽の分化開始は、「女峰」よりも若干遅くなります。また、花芽分化前定植による収穫開始の遅れは「女峰」よりも顕著に現れます。花芽分化後に定植するようにしてください。
- 4）分げつは多いので、頂果房の収穫開始までは、腋芽の除去を徹底してください。

（バイオテクノロジー担当 森 利樹）

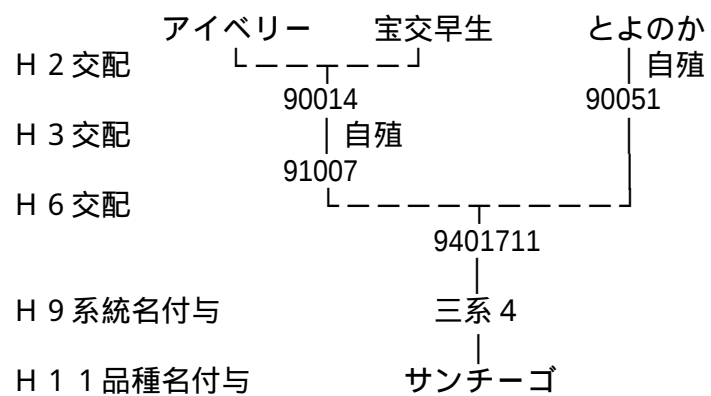


図 1 新品種「サンチーゴ」育成までの系統図

表1 新品種「サンチーゴ」の特徴

	長 所	短 所	具 体 的 デ ー タ		
			項 目	サンチーゴ	女 峰
果実品質	・糖度・糖酸比が高く、さっぱりした甘味があって、食味が良い。 ・大果で、3 L～Lクラスの揃いが良い。 ・果実が硬く、日持ちが良い。 ・果形が整い、果色・光沢が良い。 ・ビタミンC含量が高い。	・頂果に奇形果が発生しやすい。 ・空洞果がみられる。	糖度 (1月) 糖酸比 (1月) 平均果重 (g) 果実硬度 (g) ビタミンC含量(mg/100g)	10.2 14.3 16.6 120 75.3	9.5 11.4 13.1 129 64.1
病害抵抗性	・炭そ病抵抗性がある。 ・うどんこ病には、とよのかよりも強い。	・萎黄病の抵抗性は低い。	炭そ病抵抗性 萎黄病発病度 うどんこ病発病	強 84.4 育苗時に少	弱 87.5 無
生育・収量性	・草勢は、女峰よりも若干旺盛で、栽培管理は容易である。 ・既存品種よりも収量が多い。	・腋芽の発生が多く、腋芽管理にはやや労力を要する。	小葉長x小葉幅(cm ²) 収量 (g/10株)	94.5 6901	88.5 5592
早晩性	・女峰に比べて、花芽分化開始が2日程度、収穫開始が1週間程度遅い。 ・花芽分化前定植による収穫開始の遅れは、女峰よりも出やすい。		花芽分化開始日 収穫開始日	9/12 12/ 8	9/10 12/ 1